

「世界に誇る環境主都まつえ～リサイクル都市日本一～」の実現を

まつえ環境市民会議

第35号

令和2年12月

「まつえ環境市民会議」は、自然環境の保全、ごみの減量、地球温暖化防止、環境教育の推進の4つのテーマを柱に、市民・事業者・行政が協力し、一人ひとりが身近な活動を実践しています。

国宝松江城から学ぶ環境学習会開催



環境学習会会場の様子

●とき 令和2年10月25日(日)

●ところ 松江歴史館
松江城山公園



来賓を代表してあいさつする松浦正敬松江市長

国宝松江城をテーマとした初めての環境学習会がこのほど、松江歴史館と松江城山公園を会場に二部構成で開かれ、参加者が松江城の特色などを学んだ後、城山の生態系について現地学習しました。まつえ環境市民会議が、松江城を守る会とともに企画し、環境団体や企業、学生など幅広い年代層の市民33人が参加。来賓として松浦正敬松江市長も出席されました。第1部では、松江歴史館の西島太郎学芸員が松江城下の堀や武家屋敷について紹介。第2部では佐藤仁志松江市文化財保護審議会委員が城山や堀に生息する動植物について講演した後、参加者とともに堀川や城内を巡り動植物を観察して松江城の自然を学びました。この学習会は、今後も継続して開催します。

ごあいさつ

まつえ環境市民会議代表 瀬崎 輝幸



2020年はコロナ禍が社会を揺るがす一年となりましたが、会員の皆様は如何にお過ごしでしょうか。まつえ環境市民会議にとりましても、コロナ禍の影響が様々な形及び、会員の皆様の活動も制約を余儀なくされた一年となったことと拝察します。

こうした中、書面開催となりまた総会議案にもご提示致しましたように、まつえ環境市民会議の活動も大きな転機を迎え、子供たちへの環境教育や生活関連の環境対策などの主要事業を継続しつつも、多くの市民が集う環境フェスティバルを中止するなど、新たな全体活動の方向を模索してまいりました。

その一つとしてスタートさせたのが、国宝指定5周年を

迎えた松江城を舞台とした環境活動です。これは、我々が活動のテーマとしてきた「世代を超えた環境活動の実践」に基づき見出した新たな活動テーマで、市民共有の財産である松江城の森や堀川、城下町の各所に息づく自然や景観、さらには江戸期の市民に根付いていたリサイクルの理念などをフィールドワークなどで学び、環境保護の観点から、このかけがえのない歴史遺産を将来に引き継ぐ重要性に照らしながら、環境活動の持続性がいかに大切かを皆で学ぼうとするものです。

この取り組みには、時を同じくして組織された「国宝松江城を守る会」の皆様にも呼応いただき、第一回の学習会にはコロナ禍の制約の中、大勢の市民にご参加いただき成果を得ることができました。

来る2021年は、何と言いましてもコロナ禍の早期終息を願うばかりですが、会員の皆様にはくれぐれもご健康管理に留意され、本会の理念に基づく環境活動をそれぞれの立場で実践して頂きたいと思います。

会員募集中

『環境問題について、一緒に考え活動してみませんか』

会員拡大にご協力ください

申し込みは 事務局 TEL25-0881まで 申込書はまつえ環境市民会議ホームページからダウンロードできます。

国宝松江城から学ぶ環境学習会

(令和2年10月25日(日)開催)

第1部 歴史的要件から読み解く松江城下の堀や武家屋敷について

松江歴史館の西島太郎学芸員が松江城下の堀や武家屋敷について講義。湿地帯を埋め立てたため洪水対策として屋敷部分を高く盛土をし、かつ船で堀を移動するため屋敷内の高低差が顕著にみられるのが武家屋敷の特徴と解説。参加者は、歴史的背景を踏まえた水の都の工夫や特徴について理解を深めました。



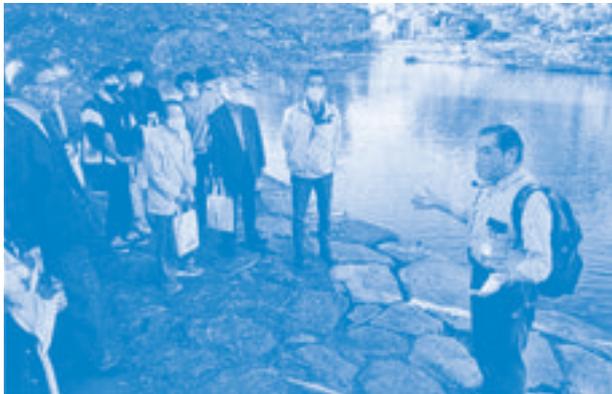
西島太郎松江歴史館学芸員



開府以前の松江について

第2部 松江城山の生き物たち

松江城周辺の生き物について説明する佐藤仁志さん(右)＝松江市殿町



国守松江城 松江市殿町をシンボルにした環境学習会が25日、松江市殿町の松江歴史館や松江城山公園で開催された。城下町ならではの環境保全の在り方を考え、実施する活動の第一弾。市民33人が歴史的背景を踏まえた水の都の特徴や、城下に生息する動植物への理解を座学やフィールドワークを通して深めた。

(曾田元気)

城下町環境守ってこう

佐藤仁志松江市文化財保護審議会委員が城山や堀に生息する動植物について紹介。城山にはキツネ、アナグマやタヌキといった野生の動物たちが生息している。これらは夜行性の獣たちで昼間は出会うことが殆どありませんが夜には活発に活動しています。また、城山は野鳥の宝庫であり、堀には鳥たちのほか多くの魚介類が生息しているとスライドを見ながら紹介。

松江 市民が生物、特徴学ぶ

松江市内の市民や企業、団体でつくる「まっす環境市民会議」(瀬崎輝幸代表)が企画した。初めにあった座学では、松江歴史館の西島太郎学芸員(50)が堀や武家屋敷について講義。湿地帯を埋め立て城下町を造成したのが特徴で、治水のための要件に逆行したため「水のコントロールが必要だった」とし、穴道湖の水を堀に流し、船で往来できるようにするなど数度の整備で環境を維持したと説明した。さらに武家屋敷には梅の木が多い果樹園や菜園があり、食用、道具、木材、観賞用に用いられ、自給自足を目指していたのが松江の特徴と解説した。

その後、佐藤仁志市文化財保護審議会委員(70)の案内で堀川や城山公園内を巡り、ムササビの爪痕が残るスギの幹などを見学。佐藤さんはキツネやアナグマ、タヌキといった多くの種類が生息している実態を紹介した。

島根大教育学部4年の高橋陽向さん(21)は「水の都の工夫が分かり、めったにない機会だった。もっと環境を守っていかないといけないと実感した」と話した。

また「環境市民会議は今後、継続的な学習会や、市民向けの冊子、動植物を紹介するDVDを制作し、啓発に努める。」



佐藤仁志
松江市文化財保護
審議会委員



松江城山の生き物たちについて解説

フィールドワーク

実際に堀川や城山公園を巡り、ムササビの痕跡が残る杉の幹を観察、樹木や動植物について説明を受けた。座学やフィールドワークを通して豊かな自然を守り、松江城山の自然環境を守る大切さについて学びました。



松江城山や堀に生息する生き物について学習



松江城山の野生の動物たちについて説明を聞く参加者



ムササビの痕跡や樹木について説明を受ける

松江市民としての誇りと環境活動の推進に向けて

～持続可能な街づくりを目指したSDGs基礎講座～

松江市、ここは多様な自然と文化が存在し、それを感じながら生活できる素晴らしいところです。こんにちは、まつえ環境市民会議の役員を務めています島根大学の松本一郎です。今回は、特別に誌面をお借りし、最近良く耳にするSDGsについてみなさんにお話しする機会をいただきました。新型コロナウイルスの時世を乗り越えるためにも、SDGs（エス・ディー・ジーズ）という取り組み・アイデアは、大きな参考になると思います。



松本 一郎

(昭和40(1965)年生まれ)

島根大学大学院教育学研究科 教授

1991年島根大学大学院理学研究科を修了後、東京の民間企業にて主に国策としての地球資源・環境問題についての調査・研究に携わる。1996年金沢大学にて地球マントルの研究で博士(理学)の学位を取得。2001年より島根大学に勤務。現在は、環境教育・理科教育を柱に、地球惑星科学を研究。実践教育としてのSDGsをはじめ、防災・減災教育、学校での理科教育や故郷教育など、子ども達や市民への出前授業に力を注いでいる。

【いまさら聞けないSDGsって何?】

最近ではテレビでも良く襟元や胸元にSDGsのきれいなピンバッチをしている人が増えています。政治家はもちろん、芸能人や一般の人に至るまで実に様々な人が、このバッチをつけ、意識の啓発を目指しています。SDGsとは、Sustainable Development Goalsの頭文字をとったもので、そこには17個の目標が用意されています(図1)。日本語では「持続可能な開発目標」と訳されます。また、SDGsは2015年のニューヨークでの国連サミットで採択されたもので、17個の目標は私達人類の様々な活動や、地球環境に関わりのある項目の全てが盛り込まれています。また、それらには数値目標があり、2030年という達成年が設定されています。

【私達、松江市民にできる事(期待する事)】

SDGsは、昨今、企業、教育現場、行政、市民活動などの様々な場において研修や実践活動として、その内容を参考に行われるようになりました。これは、これまで、個別的行われてきた活動に対し、それぞれの活動や事象が互いに繋がりを持ち、関わり合っているということを意識・行動に移すことで、それらの活動が自然と人の活動にとって持続可能な未来をもたらすというシナリオにつなげる事が一つの目標です。

松江城は築城400年を超え、その文化・歴史を私たちに残し、島根半島・穴道湖・中海ジオパークは、その自然と人との関わりを大きくアピールするものです。私達、松江市民にできる事、それは、この自然と文化の貴重さ、ありがたみをさらに学び、行動に移す中で次世代の育成に力を注いでいく事です。そのための行動指針としてのSDGsは大変参考になるものと考えています。



図1 SDGsの17個の目標(ゴール)

事業実施報告 (6月～12月)

7/18・11/8 里山保全



7/18 竹林整備活動



11/8 子どもたちの森の学習



11/8 木の実の工作



9/26 古浦海岸漂着ごみ清掃活動



漂着ごみの清掃活動参加者



漂着ごみの清掃活動



マイクロ
プラスチック
回収活動

10/15 ごみ分別学習会と ごみ処理施設視察研修会



ごみ分別の学習会



資源ごみ処理施設視察

11/10 エコドライブ&クールチョイス啓発活動



エコドライブ模擬運転体験



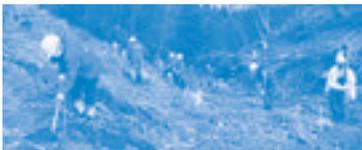
エコドライブ&
クールチョイス
街頭で啓発活動

11/22 忌部水源の森交流会

ならの苗木を植樹



水源の森交流会参加者



水源の森を
守るための
植樹活動

食品ロス&クールチョイス 啓発パネル展示 (イオン松江店)



食品ロス 啓発パネル展示
(環境月間) 6/1～6/14



11/10▲
クールチョイス
啓発パネル展示

11/24～12/13▲

ご意見 募集

まつえ環境市民会議は、会員による組織です。今後の事業や会の運営などについて、会員の皆さんからの建設的な意見等を募集いたします。

令和3年度事業については、皆さんからのご意見を反映しながら最終の事業計画(案)を策定いたします。事務局は環境センターの3Fにありますので気軽にお立ち寄りください。また、メール、FAXでも結構ですでお寄せください。

事務局

〒690-0826 松江市学園南一丁目20番43号 松江市環境センター内

Tel: 0852-25-0881 Fax: 0852-55-5497 メール: matsue@shiminkaigi.jp

会費納入 のお願い

会費をまだ納めていただいていない会員の方につきましては、改めてご通知いたしますのでよろしくお願いいたします。

座

山陰合同銀行松江市役所出張所
(普通) 3608893 まつえ環境市民会議

今年も後僅かとなりました。会員の皆さまには各活動にご協力をいただき有難うございました。来年も引き続きご協力いただきますようお願いいたします。どうぞ良いお年をお迎えください。

